



君は現代の吟遊詩人です。  
 地域をまわり、地域の人達がそこに生きている喜びを  
 感じられるような音楽を創っていきなさい。  
 (民俗学者 宮本常一氏が黒坂に与えた言葉)

## 黒坂黒太郎(正文) 50周年記念

# 歌とコカリナのコンサート

日時: 2024年6月30日(日) 開場 13:30 開演 14:00

会場: 東京都江東区 ティアラこうとう大ホール

### 【演奏予定曲】

■コカリナのための交響詩  
 「ふるさと」2024 全三楽章  
 一楽章 峠  
 二楽章 戦争  
 三楽章 春

■なぜ私は  
 ■待っているから  
 ■We can stand  
 ■ひばり&熊ん蜂の飛行  
 など

### 【出演】

■黒坂 黒太郎(正文)(コカリナ・うた・ギター)  
 ■松田 幸一(ハーモニカ・パーカッション)  
 ■矢口 周美(うた・オートハープ)  
 ■宇戸 俊秀(ピアノ)  
 ■ザ・コカリナアンサンブル

### 【チケット(全席指定)】

一般 4,000円  
 (ティアラ友の会3,600円)  
 高校生以下 1,000円  
 (各チケット当日500円増)

### 【チケットお問合せ】

黒坂音楽工房 Tel:03-6909-3363 FAX:03-6909-3536  
 E-mail:koca@crux.ocn.ne.jp  
 ティアラこうとうチケットセンター Tel:03-5624-3333  
<https://www.kcf.or.jp/yoyaku/ticket/>

主催 黒坂音楽工房(東京都豊島区千早1-16-14-201 Tel:03-6909-3363)  
 後援 NPO法人 日本コカリナ協会  
 協力 公益財団法人江東区文化コミュニティ財団 ティアラこうとう



# 50周年「させていただいて 感謝」

この50年、本当に好きなことをさせていただいてきました。

作詞し、作曲し、歌い、コカリナを開発し、演奏し、CDを出し、アンサンブルを指揮し、被災地を支援し、はたまたエッセイや小説まで書かせていただき、これほどやりたい放題やらせていただいていた者はあまりいないのでは？これはもう性分で「どうにも止まらない」のです。ただ、許していただけるのであれば、これらのやりたい放題の中に共通しているものがあることです。それは「人間が好きだ」と言うことです。「落ち込んで生きようとする人が好きだ」と言うことです。自分がしてきたことがどれほど人を励ますことができたのか、はまったく自信がないのですが、すべてのことは、そんな人たちの生き様と共にあったことは確かのように思っています。

先日、ある出版社に「こういう面白い本を作りたいのだけれど」と提案したところ「面白いけれど流通に問題がある」と答えが返ってきました。その時、そう言えば50年間、歌といい、コカリナといい、流通に乗らない事ばかりやり続けてきたなあ、と思ってしまうました。

でも、そんな僕を支えてくれたのはコンサートを作って下さった皆さんであり、コカリナ愛好家の皆さんです。そして、それは50年を経過しても続いていくことでしょう。

まだ迷惑をかけます。よろしく願います。

50周年コンサートお出かけください。

黒坂黒太郎 (正文)

## 50周年 最初の1枚

1974年にシンガーソングライターとしてデビューした黒坂正文は、コカリナの創始に伴ってコカリナ奏者、またこの楽器の特性を活かした作曲家、作詞家あるいはアンサンブルの指導者など黒坂黒太郎としての活動が加わり、半世紀の間に開催したコンサートは5千回を大きく超え、もはや計測不能(?)とさえいわれています。併せてレコード、CDなども多数提供しており、それぞれの最初の1枚を紹介しましょう。



デビューの翌年発行された最初のシングルレコード「WE CAN STAND」(上)。助詞CANを覚えるために中学の先生が作った詞に黒坂が曲を付け、歌った。詞の背景には水俣病にまつわる深い意味が込められていた。下はリニューアル版。現在でも中学などの授業で使われているという。



最初のLPアルバムレコード「茂道 メッセージ」。

ジ!」。1976年発行。標題曲の他「We Can Stand」など11曲を収録。茂道は「もどう」と読み、熊本県南部域所在の入り江が美しい村の名。2日間のライブ録音版。



初のコカリナ曲のCD「コカリナ木の精の唄」1996年発行。「アメージン」も使用されている。

「グレイス」など10曲が収録されているが、うち8曲は自ら作曲の作品。収録にはハンガリー産のコカリナと併せて、長野五輪に伴う開発で伐採された樹木から作製したコカリナ



最初の書籍「俺は野を行みゆーじやん」1985年刊。師と仰ぐ宮本

常一氏よりかくあれと宣託を受けた「吟遊詩人」を自らの言葉に置き換えた野を行きみゆーじやんをタイトルに据え、コンサートの経緯や各地の人々との交流などを綴った。

## 出演者プロフィール

### コカリナうた・ギター 黒坂黒太郎(正文) くろさか くろたろう (まさふみ)

長野県上田市出身。コカリナの創始者。

1949年長野県上田市に生まれる。民俗学者 故宮本常一氏の激励を受け、全国各地を歩き環境や生活をテーマにした歌を歌い続ける。1995年、ハンガリーの民族楽器を楽器として精度の高いものに改良し「コカリナ」と命名。コカリナ奏者としてN響メンバーと共演するなどその第一人者として幅広く活躍している。

また、広島で被爆した木からコカリナを誕生させ2001年国際平和シンポジウム(広島市主催)に招待され特別演奏。その被爆樹コカリナの音色はサントリーホールでのラジオCMに起用され、2008年日本CMコンクール(ACC賞)でジャーナリスト大賞を受賞。カンヌ国際広告祭にも出品された。

2010年、2012年、2014年にはウィーン・楽友協会(黄金のホール)にて、また2017年、2019年にはN.Y.カーネギーホールにおいて、それぞれ「コカリナコンサート」を開催。すべてのコンサートで大喝采を浴び成功させた。国内の著名クラシックホールでも公演多数。

東日本大震災後は被災した松からコカリナを作製し、被災地の子ども達にプレゼントする被災地支援活動を行った。「東京2020」の際には、国立競技場の工事により伐採された木からコカリナを製作。東京や福島の子も達とともに演奏するプロジェクトを行った。現在は、ウクライナの子も達を支援するコカリナひまわりプロジェクトにも携わっている。2023年には小説「独鈷山」を出版した。

2024年は函館、長野、和歌山、埼玉等全国各地で50周年コンサートが企画されている。

### ハーモニカ・パーカッション 松田幸一 まつだ こういち

大阪出身。日本の10ホールズハーモニカ(ブルースハーブ)界の第一人者。松任谷由美、中島みゆき、ゴンチチ、福山雅治など日本を代表するミュージシャンとセッションをしたり、ツアーに同行している。矢口周美とは30年来の交流があり、数々のコンサートで華やかな音色を奏で、支えてくれている。2019年「黒坂黒太郎カーネギーホールコンサート」にも出演、松田氏がニューヨークで活躍していた頃のファンも詰めかけ好評を博す。今までに5枚のアルバムをリリース。

### ピアノ 宇戸俊秀 うととしひで

ピアノ、キーボード、アコーディオン奏者。

Le Couple 藤田恵美 ビリーバンバン、普天間かおり、木の实ナナなど数多くのアーティストのレコーディングに参加する傍ら、自らもアルバムCDを製作。2005年「いくつかの風景」2020年「ムカフサキの宙へ」リリースする。黒坂黒太郎、矢口周美のコンサートに編曲者、伴奏者として参加。2019年「黒坂黒太郎カーネギーホールコンサート」にピアニストとして出演、好評を博す。

### うた・オートハープ 矢口周美 やぐち かねみ

和歌山県新宮市出身。現在コカリナ奏者黒坂黒太郎のコンサートにボーカルとして参加。黒坂やコカリナアンサンブルとの共演で、ウィーン楽友協会黄金のホール、N.Y.カーネギーホールなどでも歌声を披露。高い評価を得る。また、東京紀尾井ホールや東京浜離宮朝日ホールなどでモリサیتالを開催、成功させる。キングレコードよりCD「あなたに会えて」をリリース。

### ザ・コカリナアンサンブル

日本全国から、50周年記念コンサートのために集まった約160名のメンバーで構成されたコカリナアンサンブル。様々な種類のコカリナを使って、深みのある低音から、澄んだ高音まで木の美しい音色を余すところなく表現する。今回は新しく編曲された「コカリナのための交響詩『ふるさと』」全楽章の演奏に挑む。



## ティアラこうとう・大ホール

■住所：江東区住吉 2-28-36 電話：03-3635-5500

■最寄り駅：東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄新宿線「住吉」駅 A4 出口より徒歩 4分

